

Vol. 146



信愛館だより

2024年9月号

発行/ケアハウス信愛館
近江八幡市北之庄町492-2
TEL/0748-32-2220 FAX/
0748-33-7555
<http://www.shinaikan.com>
Mail/vories@zb.ztv.ne.jp

みよ、兄弟達が一つになって共に住むことは、(詩篇133の1)
なんといいしあわせ、なんといい楽しさであろう

「高齢者福祉施設に思う」

近江兄弟社地塩会 理事 西村 喜一

熱暑の今夏、自宅暮らしの高齢者が熱中症で倒れるというニュースに接する度に、高齢者福祉施設の行く末に思いを馳せることができました。エアコンが効き多く目の見守られる環境では、まず熱中症で倒れる危険はないはずですが、少子高齢化社会という言葉もなかった私の若いころには、高齢者福祉施設といえば、老人ホームとか養老院と呼ばれるものでした。今日、福祉の充実が図られ、経費ホームから特養までの個々の高齢化実態と所得などにも細かく適用する各種施設が整えられるとは想像もつきませんでした。

ケアハウス信愛館で働くみなさんの日ごろの丁寧なお仕事ぶり、利用者みなさんの穏やかな暮らしぶり、施設設備の充実を拝見するたびに「本当にありがたい。よい時代になった」感じ入ります。この半世紀に成し遂げられた高齢者福祉の充実ぶりは目覚ましく、今は自宅暮らしの私にとっても心休まる思いがするのです。

とはいえ、いったんは達成したこの充実も、達成したが故の矛盾や問題点を孕んでくるのは、致し方ないところです。私が少し気掛かりなのは、自宅暮らしや、軽費老人ホームで暮らす高齢者が、さらに年を重ねて老健施設や養護老人施設など、何らかの介護を受ける環境へ移らざるをえなくなった時のことです。

介護保険制度の危機は以前から指摘されています。保険料は年々、右肩上がりに推移して、もはや下がることがないのは明らかです。団塊世代がすべて後期高齢者になっていくいま、希望する施設へ希望通りに入れる人は少なくなっていくでしょう。報酬問題などから、絶対的な不足が叫ばれる介護職員の確保には、各施設とも外国人介護者の採用が課題に上がってくるはずですが、外国人介護者は優しい人が多い、とはよく聞きますが、これからの高齢者施設がどう変化していくのか。いずれ自らも施設に身を置く時が来るのではと考えると、関心を払わずにはおれません。

身体の動きが不自由になり、認知機能の衰えも鮮明になった時、どこにどう身を置くべきか。誰しも思い悩むところです。身の置き場所がどこであれ、要は自分として「最期まで尊厳を失わず、自分らしく生きること」に尽きる気がします。衰えが進んだとしても、常に自分らしくありたいものです。

高齢者を受け入れる施設側にとっては、利用者さんの尊厳に配慮を払うのは当然ですが、尊厳の在りようは個々に違い、自分の言葉で言い表すのが難しい高齢者もあります。「尊厳」はやっかいだけれども、人間としてのプライドの立脚点です。寝たきりの人であっても、介護する側は、人として基本的な尊厳を侵すことなく、個々に持つ尊厳の所在にも気づいてあげてほしいと感じます。

最も慎むべきは「利用者さんを、自分たちに合わせる介護」ではないでしょうか。これを放置すればネグレクトや身体拘束、ひいては虐待につながりかねません。尊厳を重んじない介護の行き着く先は、経営破綻かもしれません。

介護される側も心すべきことは多々、あります。「やってもらって当たり前」という態度ではいけないし、介護してくださる人に常に感謝を忘れてはいけません。プライドを傷つけるような言動も慎むべきです。両者が互いに相手を思いやる心が通じ合えば一番いいのですが、うまく噛み合いにくいところが尊厳をめぐる問題の難しいところでしょう。

大きな曲がり角を迎えている高齢者福祉施設には課題が山積していますが、尊厳の問題についてもいま一度、施設にかかわるすべての人が、思いを致してほしいと望みます。設備が充実しても心の充足がない施設では長続きは難しいはずですが、養老院から、せつかくここまで高めてきた高齢者福祉施設を、持続可能な形で次の世代に引き継いでいかねばなりません。了

キリスト教 あいうえお (2巡目) — 「知恵」

近江金田教会牧師 横田 明 典

知恵とは一般には、「物事の筋道を立て、正しく処理する能力」と言われます。仏教では「物事をありのままに把握し、真理を見極める認識力」だそうです。いずれにせよ人間が目指すべきもの、という感じがします。

キリスト教にも「知恵」が出てきます。特に旧約聖書の「箴言」「ヨブ記」「コヘレトの言葉」は「知恵文学」と呼ばれています。この「知恵文学」には、格言やことわざなどを使って、世界の秩序を伝えたり、人生の処世術なども書かれています、その点では一般的・仏教の「知恵」をあまり差はないかもしれません。ただ、キリスト教では「主を畏れることは知恵の初め(箴言1:7)」と言われます。つまり、知恵は神様のもとにあるもので、神様の側にあるもの、ということが前提になります。もちろん人間にも知恵はありますがその人間に先立って、その知恵を使ってすべてを創造されたのだ、ということになります。

人間の知恵。確かに目指すべきものかもしれませんが、人間の知恵には限界があることも事実です。そのことを聖書の時代の人たちは良く知っていたのではないのでしょうか。

◆ お花見ツアー 庄堺公園 (6月4日・18日) ◆



6月4日は少し散りかけていましたが綺麗に咲いており、香りを楽しまれたり写真を撮られたりされていました。

◆七夕◆



皆様でご協力されて七夕の飾りを作られました。



皆様の素敵な思いの詰まった短冊飾りが今年も完成することができました。

◆夏祭り(8月5日)



今年の夏祭りも皆さん楽しんでお食事をされていました。
たこ焼きは特に好評で皆さんおかわりされていました。

◇夏祭り(午後)



東近江江州音頭普及愛好会
三代目家元名誉会長及び踊り手の皆様



社会福祉法人近江兄弟社地塩会 令和5年度決算報告

【法人単位貸借対照表】

令和6年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	130,795,519	流動負債	6,006,884
固定資産	481,911,448	固定負債	101,009,860
(基本財産)	(375,750,841)	負債の部合計	107,016,744
(その他固定資産)	(106,160,607)	純資産の部	
		基本金	213,000,000
		国庫補助金等特別積立金	147,320,536
		次期繰越活動増減差額	145,369,687
		(内、当期活動増減差額)	(1,710,487)
		純資産の部合計	505,690,223
資産の部合計	612,706,967	負債・純資産の部合計	612,706,967

【財産目録】

流動資産計	130,795,519
固定資産計	481,911,448
資産合計	612,706,967
流動負債計	6,006,884
固定負債計	101,009,860
負債合計	107,016,744
差引純資産	505,690,223

【法人単位事業活動計算書】 令和5年4月1日~令和6年3月31日

勘定科目		本年度決算額
サービス活動増減の部	サービス活動収益計	95,918,305
	サービス活動費用計	94,239,195
	サービス活動増減差額	1,679,110
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計	364,392
	サービス活動外費用計	333,015
	サービス活動外増減差額	31,377
経常増減差額		1,710,487
特別増減の部	特別収益計	0
	特別費用計	0
	特別増減差額	0
当期活動増減差額		1,710,487
前期繰越活動増減差額		143,659,200
次期繰越活動増減差額		145,369,687



編集後記

暑さが続く中、朝晩の寒暖差が大きくなり、体調管理が難しい季節ですね。日中は汗ばむほどの暑さでも、夕方には涼しい風が感じられ、季節の変わり目を実感します。エアコンの設定温度にも悩む時期ですが、これから少しずつ秋が深まっていくでしょう。皆さんも体調に気をつけてお過ごしください。(感謝)

